

トラック 7-2

ザハニ・ラ・ツイジェがイツァンドラ地方の一部になったこの話から始めよう。かつて、ザハニ・ラ・ツイジェはバンバオ地方の一部だったが、それはスルタンたちがいた時代のことだった。イコニのことで、サイド・アリとムザフム（前者はバンバオの、後者はイツァンドラのスルタンで永遠のライバルだった）の間には揉め事が絶えなかった。それらの問題は続いたが、イツァンドラはバンバオに負けてばかりではなかった。

バンバオとイツァンドラの代表団がザハニ・ラ・ツイジェで会うことになった。イツァンドラの代表団はバンバオの代表団のためにココヤシのジュースを用意した。バンバオの代表団がそれを飲むために頭を上げた時を狙って、イツァンドラの代表団は首を刎ねてしまった。12人のハマディがそこで命を落とした（これは代表団が12人だったことを示している）。この話を知っている者は誤りを正してくれていい。サイド・アリ（バンバオのスルタン）の恨みは長く続いた。代表団の殺戮の後、ザハニ・ラ・ツイジェはイツァンドラに含まれることになった。しかし、この恨みは多くの争いにもかかわらず消えることになる。ムザフムはそのままでは済まなかった。フランス人のムシャ・ムブル（[オンブロ氏]はコモロ人の間でフランス人のイメージを象徴している）がコモロに来た時、彼はサイド・アリを助けてムザフムを吊るしてしまうのだ。